

(仮) 広域連携推進の指針 (中間とりまとめ) の概要

政策・土木交通常任委員会資料1-2
平成24年(2012年)7月4日
総合政策部企画調整課

現状と課題

■現状

○近畿、中部、北陸の3圏域の結節点に位置するという地理的な特性を有し、近隣府県と歴史的・文化的、経済的なつながりが深い。

【近畿圏】

関西広域連合を設立し、「防災」、「医療」、「観光」、「産業」、「環境保全」等の事業を推進するほか、近畿ブロック知事会などに参加している。

【中部・北陸圏】

「日本まんなか共和国」(滋賀・福井・三重・岐阜の4県)で具体的な連携事業に取り組むほか、中部圏知事会などに参加している。

○県基本構想の未来戦略において、

- ・「不安なく楽しく暮らせる滋賀」
- ・「人と自然がつながる美しい滋賀」
- ・「たくましく活気に満ちた滋賀」
- ・「安全・安心な滋賀」

の姿の実現を目指している。

■課題

⇒国が選択と集中による成長を指向するなかであって、近畿圏だけではなく、中部・北陸圏においても存在感を高め、社会・経済成長を実現する必要がある。

⇒活動範囲が拡大している住民や企業の安全・安心を確保し、県域を越える広域的課題へ対応する必要がある。

広域連携推進の方向性

☆3圏域の結節点という地の利を活かし、中部・北陸圏において、滋賀県基本構想の未来戦略で描く「4つの滋賀の姿」の実現につながる、近隣府県との連携を推進する

《重点分野》危機管理、医療、環境、産業、広域交通・物流、観光

【未来戦略で目指す姿】

○たくましく活気に満ちた滋賀

施策化の視点1 滋賀の未来成長につながる

■産業

- 県内企業の成長分野への参入促進や競争力強化、需要の創出が図れる
- ・新たなイノベーション創出環境・機能の強化
- ・中堅・中小企業等の国際競争力の強化
- ・中小企業のモノづくり現場力の向上
- ・地域産業の活性化

■広域交通・物流

- 広域災害の対応、地域間交流の活性化や地の利を活かした物流機能の充実が図れる
- ・リターン確保のための国土軸の複数ルート化
- ・緊急事態に対応するための、県際道路の整備促進
- ・広域観光ルートの形成につながる公共交通や道路ネットワーク整備
- ・地理的優位性を最大限に生かし、高める鉄道ネットワーク整備
- ・近隣港湾や空港の戦略的な活用が可能な物流ネットワーク形成 など

■観光

- 豊富な観光資源や地の利が活かされたルート設定、発信につながる
- ・歴史的資産を活かした観光ルートの形成強化
- ・公共交通や道路ネットワークの整備を活かした観光ルートの形成
- ・情報発信やアピエーションの強化
- ・教育旅行やインバウンド誘致に向けた情報発信強化

【未来戦略で目指す姿】

- 安全・安心な滋賀
- 不安なく楽しく暮らせる滋賀
- 人と自然がつながる美しい滋賀

施策化の視点2 広域課題の効果的な解決を図る

■危機管理

- 広域災害に対し、住民(企業)が安全・安心に活動できる
- ・原子力災害に対する、広域的な防災体制を築く
- ・地震災害に対する、広域応援・受援等の実効性を高める
- ・感染症対策に対する早期の情報共有体制構築や、防疫措置の連携、風評被害や社会活動制限等の調整の仕組みを構築

■医療

- 複数機のドクターによる二重・三重のセーフティネットの形成が図れる
- ・関西広域連合の広域救急医療連携計画において、将来的に適正な配置・運航および、近隣府県との連携による、二重・三重のセーフティネットの構築が示されている
- ・広域救急医療連携計画に沿って、近隣府県との相互補完体制を構築する

■環境

- 温暖化対策や生態系保全の施策効果の向上が図れる
- ・関西で推進している温室効果ガス削減のための広域取組について、中部圏においても連携を一層拡大する
- ・府県域を跨いで生息する野生鳥獣について、課題を共有し、解決に向けた取組を推進する など

滋賀県基本構想

「住み心地日本一の滋賀」の実現